

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2873600510		
法人名	さくらケアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム さくら新宮		
所在地	兵庫県たつの市新宮町鶯崎286-1		
自己評価作成日	平成23年8月18日	評価結果市町村受理日	平成23年10月25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2873600510&SCD=320
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成23年9月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別ケアの確立を目指し、日々取り組んでいます

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

『さくら新宮10ヶ条』をケアの具体的な指針として毎日サービスチェックが行われ、質向上に努めている。地域の医療連携を基に利用者が重度化また終末期に及んだ場合にに向けたケアについて話し合いを繰り返し、支援に取り組んでおり、利用者・家族の大きな安心感につながっている。居室内の畳敷き、障子張り、照明、和紙ブラインド、手すりなどに高齢者にやさしい気配りが施され利用者本位のこだわりが見られた。地域の人々、市の担当者等の支援・協力が大きいとの管理者の言があり地域密着型サービス事業所として更なる取り組みに期待が持てる。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基に実践し易くした「さくら新宮10ヶ条」を毎日、ミーティング時に唱和し、日々取り組んでいる	法人の運営理念が具体的であり、理念に沿って実践すべき指針を10カ条にまとめ、職員間で周知され実践に取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域生活の継続支援や地域の関係性を重視した事業所独自の理念について話し合い、パンフレットや広報誌に掲載するなどの具体的な取り組みに期待したい。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会・婦人会の主催する「なごみの会」に毎月招待頂き、季節の行事とお茶会を満喫している	自治会に加入し、溝掃除やごみ拾い等の地域活動に参加し、毎月行われるふれあい喫茶に利用者が招待されている。地域ボランティアの受け入れや事業所の行事にも地域の方に参加を願ひし交流に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	会議の時の話し合いの中で自治会長さんや民生委員さんに、地域の方々に気軽に立ち寄ってもらえる開かれた事業所でありたいことを伝え、支援につなげていきたい		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	議題について吟味し、報告や現況を的確に行うようにしている。議事録を作成し、要望・苦情などにすぐ対応できるよう取り組んでいる	2ヶ月毎の定期開催が地域公民館や事業所などで行われ、市の職員、地域役員、家族代表等から運営に関する意見や行事についての意見交換が行われている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	提出書類・報告書は直接出向き、意見や質問などを受けるなど日頃から率直な意見・指示を受けサービスに反映させている	市の介護保険課の窓口に出向き、報告書類の書き方から困難事例の相談など日頃から情報を共有し、市町村と連携を図っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所全体で把握し実践に努めている。玄関の施錠を行わないのが理想ですが、安全確保を優先し、施錠している時間帯もありますが、施錠を行わない努力をしています。	管理者が外部の研修や法人内研修で身体拘束をしないケアの実践について学ばれ、ミーティングで職員に話をされている。安全の為に日中も玄関施錠は継続されている。	「指定地域密着型サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」について職員全員で繰り返し確認を行い、利用者の人権を守ることがケアの基本であるという認識に立ち、支援方法の工夫が望まれる。
7	(6)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場の勉強会でテーマにしたり、会議等で話し合う場を設け、意識を高めている	高齢者虐待防止関連法について理解を深め、言葉かけや日々の実践が不適切なケアに繋がっていないかなど、ミーティングで確認が行われている。職員の精神的なストレスを貯めないように食事会を行うなど防止に取り組まれている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加するようにし、それに基づく学習会を行うようにする	市の主催するケア会議で成年後見制度についての研修を管理者が学び、月1回のミーティングで職員に伝えている。今後も継続して学ぶ機会を提供し、権利擁護に関する制度を必要に応じて活用できるよう支援する体制が整っている。	
9	(8)	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明等を行い、ご理解・納得して頂いています。疑問点などには随時対応するようにしています	契約時において重要事項説明書や機関紙を用いて丁寧に説明し、重度化した場合や医療機関との連携について詳しく説明を行い、同意を得ている。	
10	(9)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に希望や要望・問題点等をお聞きし、ケアに結びつけるよう配慮している	日頃から利用者・家族からの要望や意見を受け入れており、職員から利用者からの意向をミーティングで話し合い、運営に反映させる仕組みが構築されている。	
11	(10)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	多くの気づきや提案は聞き逃さず、見逃さない柔軟な体制をつくり、サービスの向上につなげる努力をしている	ミーティング等で職員の提案や意見を話し合っている。半年に1度行う個人面談ではミーティングでは言いにくい話を聞く機会にし、運営やサービスの質向上に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働条件の整備、福利厚生確立、希望シフトの受容など働きやすい職場環境を目指し努力している		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の為、学習教材を提供し学習会等を行い、スキルアップ出来る様、援助している		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同事業者との、会議・交流会など参加し、情報交換を行う。参考事例等でサービスの向上に繋げるようにしている		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学・契約段階から要望や不安な点について把握し、意に添える努力をしている		
16			初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の不安・要望を遠慮なく聞かせて下さるよう、電話や来園時にお話を伺い、本人様の様子をお伝えし、協力し合える関係作りに努めています		
17			初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービス援助を、介護計画に生かし、事業所内に居ても、必要に応じて受けられるサービスの利用も検討していく		
18			本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や掃除等の家事作業も職員と一緒にいき、感謝を伝える事で共に生活していると感じて頂ける様努めています		
19			本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居と同時に絆が断ち切れるのではなく、家族様にとっても第2の家庭であるような場として、いつでも気楽に立ち寄り、様子を見て頂けるよう努力している		
20	(11)		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様の了解の範囲内にて面会や外出も自由にし、馴染みの方などが気軽に立ち寄ってもらい、関係が継続出来る支援を行っている	親戚の人や友人が事業所へ遊びに来られたり、また知人のお見舞いや墓参りなどの要望を家族の協力を得ながら馴染みの関係継続支援が行われている。	これまでの人間関係や地域社会とのかかわりを継続する為に、事業所で何ができるかを話し合い積極的な継続支援が望まれる。
21			利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性を大切に個別ケアを重視し、共同生活がプラスになるような環境作りを支援している。また、仲の良い同士はより絆が深まるような関係作りに努めている		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	円満な退居により、近況報告やお互いの現況を大切にしている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々に異なる生活環境、身体状況においても本人の意を大切に検討している	日々の関わりの中で一人ひとりの意向把握に努めている。困難な場合には本人の表情や言葉かけの内容を考慮したり、家族や関係者などから情報を得ながら意向把握に努めている。	
24			これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報により、その人らしさを自然に演出できるよう沢山の形態を探し、満足頂けるように努めている		
25			暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方も流れ作業にならないよう個人を大切に意向を確認しながら共同生活に生かす努力をしている		
26	(13)		チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画をもとに、様子観察・身体状況の変化・機能の現状把握を行い、問題点や課題などを会議においてスタッフ全員で協議し介護計画を作成している	半年に1度の介護計画の見直しを行っている。サービス担当者会議で職員全体で意見を出し合い、モニタリングを基に介護計画の見直しが行われている。	職員の視点から見た介護計画でなく本人に聞いても無理だと決めつけず、家族の意向を盛り込み、利用者主体の暮らしを反映した計画の見直しが見られる。
27			個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や個人ケースに昼夜を通し、正確に記録している。体調変化など見逃さず、申し送りを徹底し情報を共有し、活かす様にしている		
28			一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族様の状況をふまえ、移動図書や訪問理美容、往診歯科などの利用を受けている		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の行事などに参加し、楽しさを共有している。月例のお茶会なども楽しみのひとつになっている。また大正琴や手品等のボランティアさんの行事も楽しまれています		
30	(14)		かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族様の希望を受け、入居前と変わらない状況を継続し、現在の身体状況の把握・機能等周知し、緊急事態にも備えている	利用者・家族の希望によるかかりつけ医の受診継続を支援している。近隣のかかりつけ医には看護師が同行し通院支援が行われており、遠くの医療機関の受診には家族の協力を得ている。	
31			看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置にて常に病変や救急に対応している。定期受診等を的確に行い、健康管理を看護・介護共有し連携している		
32	(15)		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要に応じた入院は家族・本人の了解のもと、症状回復状況を見極め病院側の治療内容など情報交換の上で早期の退院になるよう努めている	利用者の入院した際には、本人の見舞いや日頃の情報を伝え、退院時には家族と共にカンファレンスに参加し病院関係者との情報交換が行われ、健康面や緊急時の相談等、連携に努めている。	
33	(16)		重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化については機会あるごとに説明し、お互いの意思・意向を納得し、方針を共有している	重度化した場合や終末期については看取りに関する指針や対応方針が明文化され、本人・家族と話し合いながら医療協力体制を整え、ニーズに応える様に取り組んでいる。	
34			急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを職員間で熟知し、日頃から冷静に柔軟な対応ができるよう訓練している		
35	(17)		災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練は年2回実施し、災害については地域・自治会との連携に取り組み避難・支援を受けられるよう取り組んでいる	年2回、消防署の協力を得て昼夜を想定した火災訓練が行われている。	火災以外の災害について避難訓練やシミュレーションを行うなど、また災害に備えた備品等の準備や地域協力体制の構築について話し合い、実践的な取り組みに期待したい。

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本姿勢である尊厳は厳守事項です。常に丁寧な言葉遣いを心がけひとり・ひとりを大切に対応するようにしている	年長者にたいして尊厳をもった言葉遣いやケアに努めている。入浴中のプライバシーに配慮し、利用者の個人情報、守秘義務についての日常的な確認と改善に取り組んでいる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の個性を重視し何を望まれているかを優先し意に添えるよう取り組んでいる		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調・意欲・気分等をよく観察し、その人がどのように過ごしたいかを優先するようにしている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさとは、今までの生活歴や環境・好みの違いであり、個々に違う演出方法で満足されるよう支援する		
40	(19)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しみのひとつで、旬の食材を選び、季節感のある栄養価にも配慮している。口に合うように努力し、盛り付けなども工夫している。準備や片付けも一緒に行えるようにしている	利用者の好みを盛り込んだ1週間分の献立を作り、季節の旬のものを提供し、食事の準備や配膳を一緒に行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・バイタル値・排泄チェック表等にて体調管理を行っている。自由に飲める場所の確保、いつでも飲める工夫をしている。夜間は、各居室に配茶をしている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には、うがいをし、就寝介助時には歯磨きや義歯洗浄を行っている。声かけ、見守り介助にて個々に合ったケアをしています		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄リズムを把握し、トイレ誘導等をこまめに実施し、自力でトイレでの排泄が出来るよう支援している	一人ひとりの排泄習慣を把握しながら、トイレへの誘導を細やかに対応し、トイレでの排泄支援が行われている。	排泄チェックを活用し尿意のない人にも時間を見計らって誘導したり、排泄の失敗やオシメの使用を減らすなど、オシメをしないで暮らすの重要性について積極的な取り組みに期待したい。
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝・夕に排便チェックを行い、水分摂取や歩行運動をすすめたり、散歩に出る等、便秘の予防に努めている		
45	(21)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週4回の入浴日は個々の好みの時間帯・湯加減・所要時間などに合わせ入浴が楽しい時間になるよう努めている	1週間に4日間入浴を実施し、ひとり一人の希望に応じて、曜日、回数、時間、湯の温度等柔軟に対応している。ゆず湯など入浴を楽しむ支援が行われている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室にて他の方への気遣いなく、個々の生活習慣を維持し、安心して休まれるよう支援している		
47		服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の管理は看護師の指示に従い、内容の把握に努めている。副作用等の知識も習得し、変化を見逃さず注意を払っている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日記・植物栽培・食事作り・将棋等今も健在で継続出来る事を支援している		
49	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族様の協力により、お墓参りや買い物などの外出、その日の希望などに対応できるよう支援している	日常的な散歩、買い物、ドライブなどその日の気候や利用者の状況に応じて柔軟に外出支援がなされている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>管理可能な方は、家族様了解のもと、少額を所持し、好きな物を買う喜びを味わって頂く様配慮している</p>		
51			<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>年賀状・暑中見舞い等のやり取りを支援している。電話の取次ぎなども行い、ゆっくり話して頂いている</p>		
52	(23)		<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>事業所の顔である玄関は季節の花が飾られ、共用空間は清掃が行き届き清潔に保たれ、居間の照明は柔らかい和紙に包まれている</p>	<p>広い台所と居間ははき出し窓から一面に田園風景が見渡せ、廊下にはところどころに応接セットがあり、ベンチも設置されている。また美術館のような絵画が並び落ち着いた空間が創られている温度湿度管理がなされ、環境整備が整っている。</p>	
53			<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下にソファを置き共用部でありながら、プライベートにも配慮出来る空間が存在している。また、居室前のベンチでも、入居者同士がお話する姿が多くある</p>		
54	(24)		<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には今まで使っておられた家具や馴染みの物品をお持ち頂いて、過ごして頂いている</p>	<p>全室畳と障子が基本となりテレビ、ぬいぐるみ、写真、空気清浄機などを持ち込まれ、一人ひとりの好みや個性を活かした居心地良く過ごせる工夫がされている。</p>	
55			<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>「トイレ・便所」と表示したり、夜間トイレの照明をつけておく工夫で、排泄の失敗が減っている。他、目で見て読んで認識できるように説明書きや表示を行うよう努めている</p>		